
2026年2月期 第3四半期決算

＜参考資料＞

2025年 12月26日

くらしの「あたらしい幸せ」を発明する。



J.FRONT RETAILING

<3Q決算サマリー>

- ◆ 3Q(9~11月)は売上が堅調に推移したことなどから、事業利益は前年同期比で増益確保、計画比ではやや上振れて着地
- ◆ 下期見通しについて、中国からの訪日客減少の影響は不透明な要素があるものの、10月公表値の達成を目指す

2024年9月1日付のグループ内組織再編に伴い、従来、「その他」に含まれていた株式会社J.フロントONEパートナーの運営事業の一部を「デベロッパー事業」の株式会社パルコスペースシステムズ他へ移管いたしました。

これに伴い、前連結会計年度の期首(2024年3月1日)より移管されたものとみなし、遡及修正しております。

- ▶ 3Q(9~11月)は、百貨店・SC事業の売上伸長などで増収、事業利益は+9億円の増益を確保
- ▶ 営業利益は大丸梅田店の改装、静岡PARCOの営業終了決定に伴う損失計上などで△10億円の減益

(単位:億円、%)

2025年度 (2026年2月期)	3Q (9~11月)			3Q累計 (3~11月)		
	実績	対前年		実績	対前年	
		増減高	増減率		増減高	増減率
総額売上高	3,177	141	4.6	9,403	262	2.9
売上収益	1,082	15	1.5	3,281	121	3.8
売上総利益	540	39	7.8	1,616	30	1.9
販売管理費	407	29	7.8	1,201	63	5.6
事業利益	133	9	7.9	415	△33	△7.4
その他の営業収益	2	1	92.9	31	△58	△64.7
その他の営業費用	28	21	307.3	40	12	47.2
営業利益	107	△10	△9.0	406	△104	△20.4
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	63	△16	△20.4	246	△123	△33.4

(単位:億円、%)

2025年度 (2026年2月期)		3Q (9~11月)			3Q累計 (3~11月)		
		実績	対前年		実績	対前年	
			増減高	増減率		増減高	増減率
百貨店	総額売上高	2,018	108	5.7	5,957	56	1.0
	売上収益	645	47	8.0	1,941	70	3.8
	事業利益	78	9	14.4	238	△30	△11.4
	営業利益	62	2	5.0	228	△24	△9.6
SC	総額売上高	899	72	8.8	2,628	173	7.1
	売上収益	170	6	3.7	501	19	4.0
	事業利益	44	3	9.3	127	8	7.3
	営業利益	34	△5	△14.1	130	18	16.5
デベロッパー	総額売上高	185	△74	△28.6	618	△31	△4.9
	売上収益	185	△74	△28.6	618	△31	△4.9
	事業利益	13	△7	△34.7	57	△6	△9.5
	営業利益	12	△8	△40.2	56	△6	△10.6

2025年度 3Q セグメント情報(IFRS) ②



J.FRONT RETAILING

(単位:億円、%)

2025年度 (2026年2月期)		3Q (9~11月)			3Q累計 (3~11月)		
		実績	対前年		実績	対前年	
			増減高	増減率		増減高	増減率
決済・金融	総額売上高	34	1	3.7	100	2	2.6
	売上収益	34	1	3.7	100	2	2.6
	事業利益	1	△4	△75.2	6	△11	△64.4
	営業利益	1	△5	△77.4	5	△9	△62.9
その他	総額売上高	154	20	15.5	450	86	24.0
	売上収益	149	19	14.8	438	85	24.1
	事業利益	1	0	124.2	5	1	30.6
	営業利益	1	0	131.6	4	0	7.6
調整額	総額売上高	△114	12	—	△351	△25	—
	売上収益	△102	15	—	△319	△24	—
	事業利益	△6	7	—	△21	4	—
	営業利益	△4	4	—	△19	△82	—

- ▶ 国内消費の堅調に加え、免税売上高が増収に反転するなどで増収
- ▶ 免税売上高は284億円、対前年+12.0%。円安基調などで計画比プラスで推移
- ▶ 万博などでコスト増も、3Q(9~11月)の事業利益は+9億円増益

2025年度 (2026年2月期)		3Q (9~11月)		3Q累計 (3~11月)		
実績	対前年		実績	対前年		
	増減高	増減率		増減高	増減率	
総額売上高	2,018	108	5.7	5,957	56	1.0
売上収益	645	47	8.0	1,941	70	3.8
売上総利益	419	29	7.7	1,244	24	2.0
販売管理費	340	19	6.2	1,005	55	5.8
事業利益	78	9	14.4	238	△30	△11.4
営業利益	62	2	5.0	228	△24	△9.6

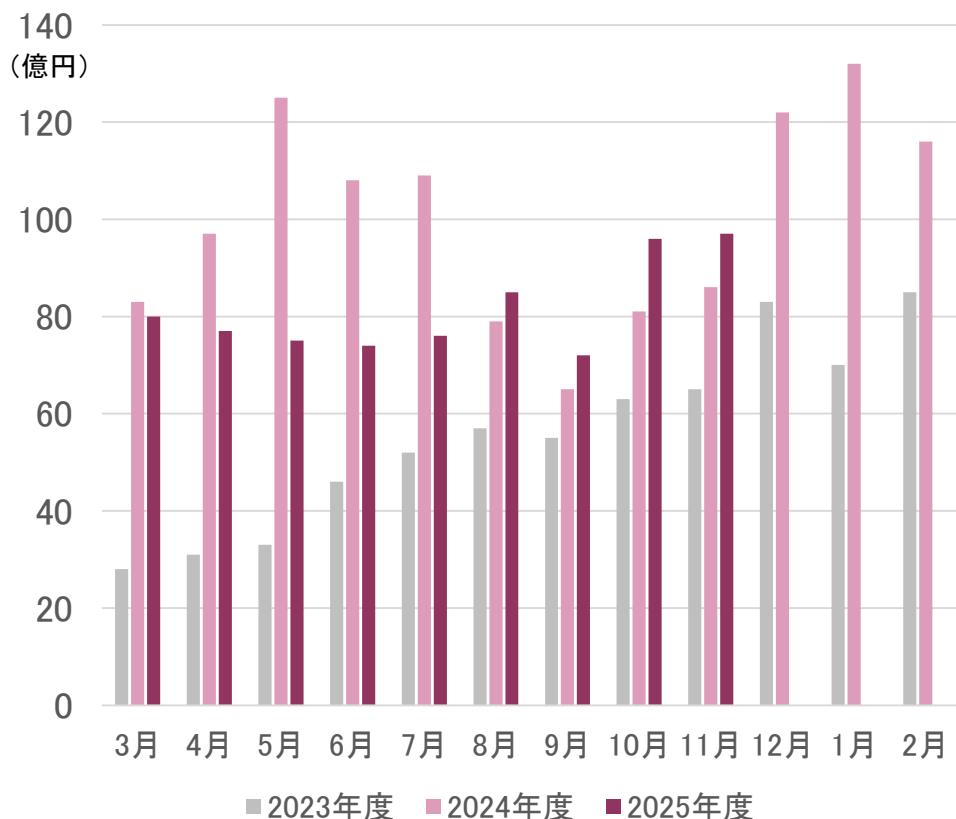
- ▶ 免税売上高が伸長した心斎橋店は+11.7%、神戸店は+6.3%と好調に推移
- ▶ 万博効果の終了後、上層フロアの売場閉鎖が始まった梅田店は+6.0%
- ▶ 8月末に本館改装が完了した名古屋店は+9.0%の増収

(増減率、%)

2025年度 (2026年2月期)	対前年度			3Q累計
	1Q	2Q	3Q	
大丸心斎橋店	△9.3	△0.9	11.7	0.1
大丸梅田店	10.6	14.6	6.0	10.5
大丸東京店	△5.3	△0.5	3.4	△0.9
大丸京都店	△13.8	△10.9	△0.2	△8.6
大丸神戸店	1.7	△1.4	6.3	2.2
大丸札幌店	0.1	△2.5	1.6	△0.3
松坂屋名古屋店	△0.5	2.0	9.0	3.5
直営店合計	△2.8	△0.4	5.2	0.6

- ▶ 3Q(9~11月)の免税売上高は267億円、客数増などで対前年+14.8%
- ▶ 足元は中国からの訪日客数減が顕著となり、前年実績を下回って推移

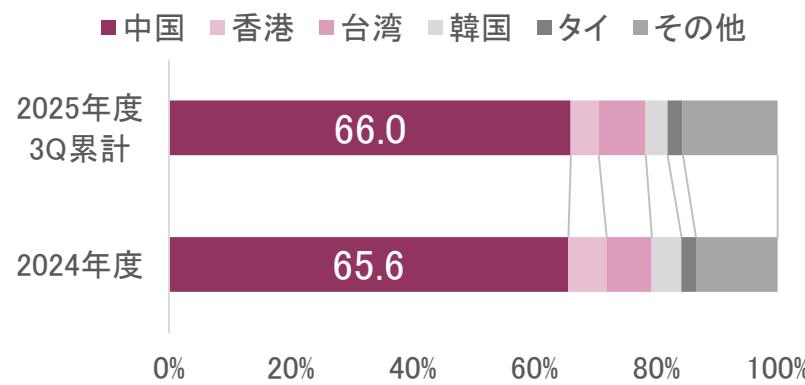
免税売上高(2023年3月～2025年11月)



客数・客単価 対前年増減率(%)

	1Q (3～5月)	2Q (6～8月)	3Q (9～11月)
客数	+14.2	+5.8	+15.4
客単価	△33.4	△24.9	△0.5

国別売上高シェア(%)



- ▶ 3Q(9~11月)は、主に手数料増などにより、対前年で+22億円増
- ▶ 万博関連の費用を除くと、対前年で+8億円増

(単位:百万円)

項目	3Q (9~11月)	対前年 増減高	3Q累計 (3~11月)	対前年 増減高	対前年 主な増減要因 (9~11月)
人件費	8,150	101	23,561	187	【人件費】 ・正社員給与 +1.4億円
広告宣伝費	2,967	447	7,857	801	【広告宣伝費】 ・インバウンド施策 +3.4億円
包装配達費	359	93	1,498	191	【その他】 ・手数料 +12.9億円
減価償却費	4,998	△44	15,093	△205	・外注費・業務委託費 +3.6億円
作業費	2,862	△30	8,465	285	
その他	11,853	1,660	35,649	4,748	※上記のうち、 万博関連を除く +8.2億円
販管費合計	31,192	2,227	92,126	6,008	

- ▶ テナント取扱高は、国内・海外顧客ともに引き続き好調に推移
- ▶ 静岡PARCOの営業終了決定に伴う損失計上により、3Q(9~11月)の営業利益は減益も、3Q累計では事業利益+8億円、営業利益+18億円の増益

(単位:億円、%)

2025年度 (2026年2月期)	3Q (9~11月)			3Q累計 (3~11月)		
	実績	対前年		実績	対前年	
		増減高	増減率		増減高	増減率
総額売上高	899	72	8.8	2,628	173	7.1
売上収益	170	6	3.7	501	19	4.0
売上総利益	71	6	10.8	206	13	6.9
販売管理費	26	3	13.3	78	4	6.3
事業利益	44	3	9.3	127	8	7.3
営業利益	34	△5	△14.1	130	18	16.5

- 大型リニューアルが9月に完了した渋谷PARCOは取扱高が大きく伸長
- 名古屋PARCO、仙台PARCOは、改装効果などにより2桁増収を持続

(増減率、%)

2025年度 (2026年2月期)	対前年比較			3Q累計
	1Q	2Q	3Q	
札幌PARCO	12.0	7.5	3.0	7.4
仙台PARCO	7.1	17.5	12.9	12.5
浦和PARCO	2.3	7.2	9.4	6.3
池袋PARCO	△1.8	1.1	4.3	1.2
渋谷PARCO	1.8	6.2	26.3	11.4
調布PARCO	2.1	3.8	5.7	3.8
名古屋PARCO	14.6	21.2	13.2	16.3
心斎橋PARCO	16.8	3.6	8.9	9.5
福岡PARCO	9.0	4.9	2.8	5.5
全店合計	5.8	6.6	9.5	7.3
既存店合計	6.9	7.6	10.5	8.3

※ 松本PARCOは2025年2月28日に営業終了いたしました。

- ▶ 3Q(9~11月)は、J.フロント建装における前年の大型工事受注の反動などにより減収・減益
- ▶ 3Q累計の事業利益は△6億円減益も、計画をやや上回り進捗

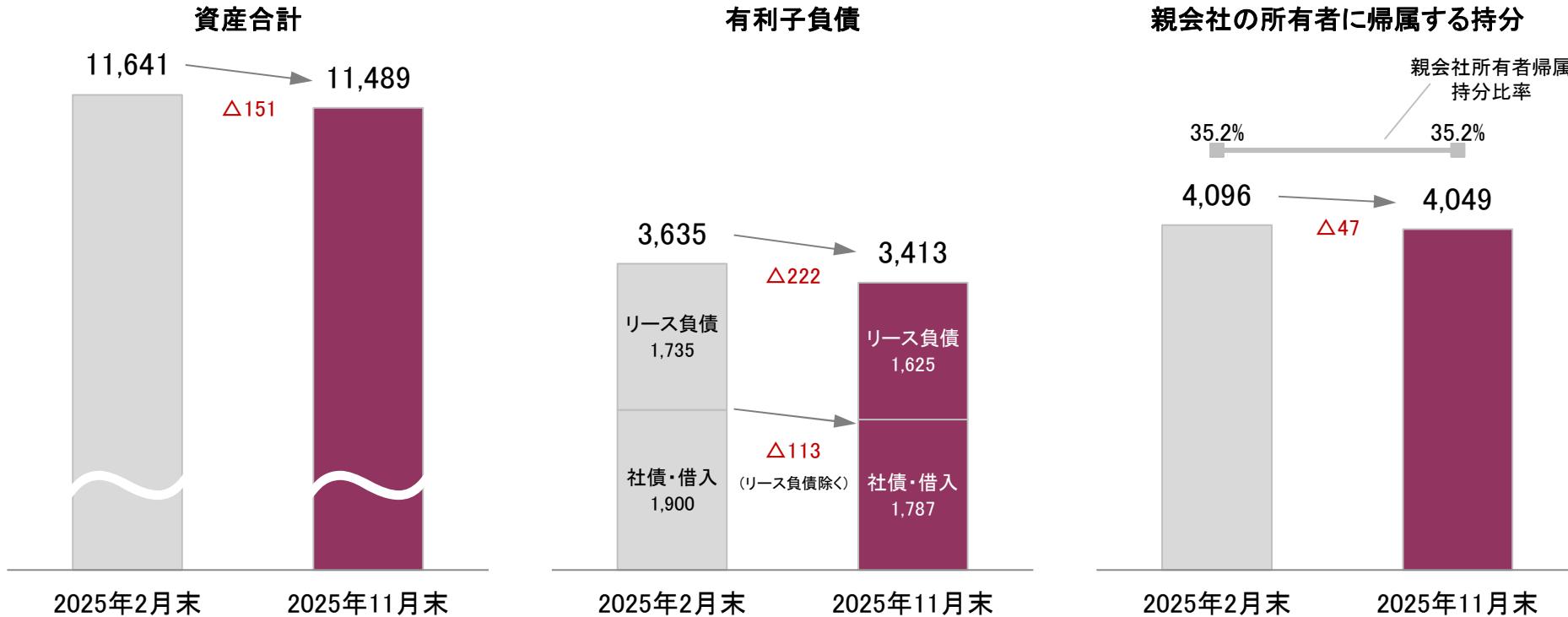
2025年度 (2026年2月期)	3Q (9~11月)			3Q累計 (3~11月)		
	実績	対前年		実績	対前年	
		増減高	増減率		増減高	増減率
総額売上高	185	△74	△28.6	618	△31	△4.9
売上収益	185	△74	△28.6	618	△31	△4.9
売上総利益	31	△5	△15.7	110	△3	△3.4
販売管理費	18	1	7.2	52	2	4.3
事業利益	13	△7	△34.7	57	△6	△9.5
営業利益	12	△8	△40.2	56	△6	△10.6

- ▶ カード取扱高拡大による加盟店手数料の増加などにより増収
- ▶ 新カード発行に伴う会員獲得費用などが増加したことにより、3Q累計の事業利益は△11億円減益

(単位:億円、%)

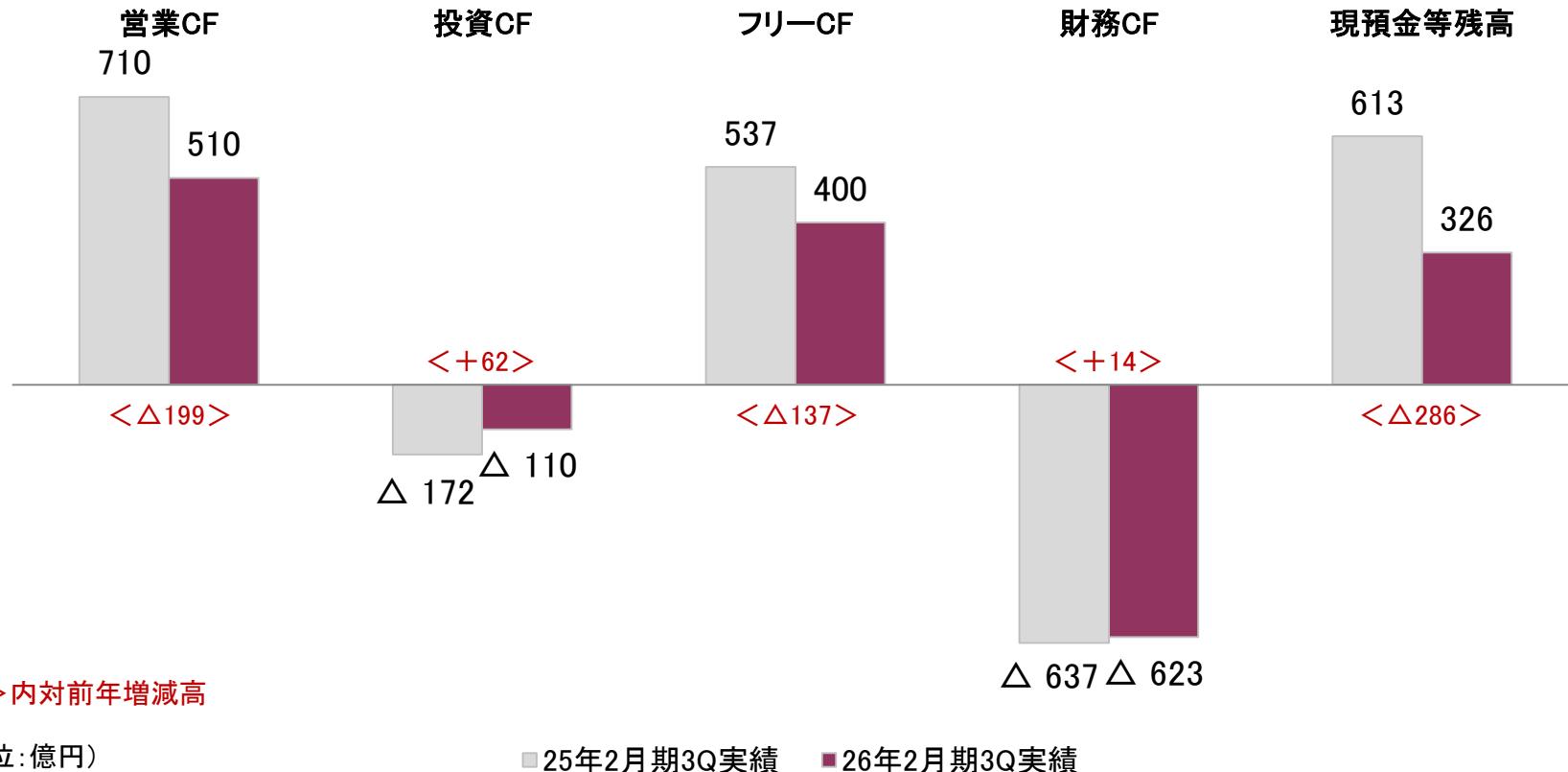
2025年度 (2026年2月期)	3Q (9~11月)			3Q累計 (3~11月)		
	実績	対前年		実績	対前年	
		増減高	増減率		増減高	増減率
総額売上高	34	1	3.7	100	2	2.6
売上収益	34	1	3.7	100	2	2.6
売上総利益	34	1	3.7	100	2	2.6
販売管理費	32	6	23.2	94	13	16.8
事業利益	1	△4	△75.2	6	△11	△64.4
営業利益	1	△5	△77.4	5	△9	△62.9

- ▶ 資産合計は1兆1,489億円、対前期末△151億円の減少
- ▶ 有利子負債残高(リース負債除く)は1,787億円、対前期末△113億円の減少
- ▶ 親会社の所有者に帰属する持分は4,049億円、対前期末△47億円の減少



(単位: 億円)

- ▶ 営業CFは法人税支払額の増などにより510億円、対前年△199億円の収入減
- ▶ 投資CFは百貨店、パルコの店舗改装などにより△110億円の支出
- ▶ フリーCFは前年から△137億減となるも400億円を確保



- ▶ 2027年春オープンに向け、来年2月より松坂屋名古屋店南館の改装に着手
- ▶ 松坂屋、PARCO、HAERAを核に、エリア全体で高質・高揚消費層へアプローチ

2024～25年

2026年 初夏

2027年 春

松坂屋名古屋店
戦略改装

HAERA
(新商業施設)
開業

名古屋PARCO
戦略改装

松坂屋名古屋店南館

“百貨店×パルコ”



リニューアル対象面積
約19,000m²

栄エリアにおけるプレゼンスの向上

Website

<https://www.j-front-retailing.com>

くらしの
「あたらしい幸せ」を
発明する。



J. FRONT RETAILING

本資料における業績予測や将来の予測に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性その他の要因が内包されております。従いまして、様々な要因の変化により実際の業績は見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。